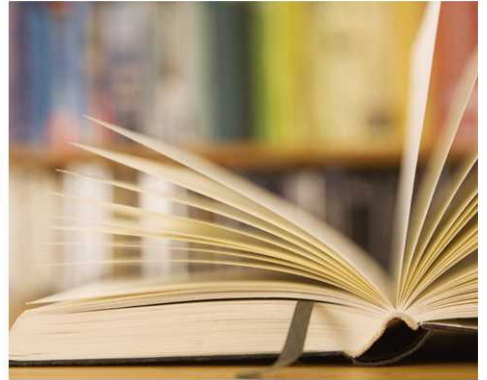


「学習指導案の作成とポイント」



福井県特別支援教育センター

「学習指導案の作成とポイント」についてお話しします。

「学習指導案の作成とポイント」資料集も用意してご覧ください。



6つのポイント

- 1 授業づくりで大切なこと
- 2 学習指導案の作成のために
 - (1) 誰のために書くの？
 - (2) 何のために書くの？
 - (3) 通常学級との違いは？
 - (4) 押さえておきたいこと
- 3 学習指導案を書くステップ
- 4 児童生徒の実態をふまえて作成
 - (1) 知的障害学級での場合
 - (2) 自閉症・情緒障害学級での場合
- 5 学習指導案の作成のポイント
 - (1) 学習指導案作成のポイント 細案
 - (2) 学習指導案作成のポイント 略案
 - (3) 学習指導案作成のポイント 自立活動
- 6 最後に

資料1 各自の指導案

資料2 資料3

資料4 資料5

ここで話すポイントは、大きくこの6点です。

1 授業づくりで大切なこと

▶授業づくりで大切なことは、子どもたちが何をどのように学ぶかを
授業づくりの視点に沿って、
順番に丁寧に考えてみることにすること



資料1 学習指導要領総則

平成29年4月

- ▶ 何ができるようになるか
- ▶ 何を学ぶか
- ▶ どのように学ぶか
- ▶ 何が身に付いたか
- ▶ どのように支援するか

1 授業づくりで大切なことについて

授業づくりで大切なことは、何でしょうか。

それは、目の前の子ども達が、何をどのように学ぶかを授業づくりの視点に沿って、丁寧に考えてみることです。

資料集の資料1をご覧ください。

授業づくりの視点ともなるのが、新学習指導要領総則の主旨にもなっている、次の5つです。

何ができるようになるか、何を学ぶか、どのように学ぶか、何が身に付いたか、どのように支援するか、という5つの項目です。

実施するために何が必要かということは、実現するための方策にかかわるものであることから、授業づくりではふれていません。

この5つの視点を、支援学級や子ども達の実態に合わせて、具体化していくことが大切です。

この5つの項目は、授業づくりのプロセスとして読み替えることもできます。



学習指導要領総則 平成29年4月

- 何ができるようになるか
- 何を学ぶか
- どのように学ぶか
- 何が身に付いたのか
- どのように支援するか



この5つのプロセスを集約したものが、学習指導案であり、この設計図が明瞭でなければ、授業そのものが成立しないとも言えます。

先生方が自分で作成した学習指導案をご覧ください。

授業の設計図ともいえる学習指導案の中に、この5つのプロセスが一つでも見えてくるでしょうか。

2 学習指導案の作成のために

(1) 誰のために書くの？

① 学ぶ主体である 子どもたち のために書く

② 授業を行う 教師自身 のために書く

③ 授業を 参観する人たち のために書く

次に、学習指導案を作成するにあたり、知っておきたいことについてお話しします。

学習指導案は、誰のために書くのでしょうか。

1つめは、学ぶ主体である子どもたちのためです。

本来子どもたちは「わかった」「できた」「もっとやりたい」という思いをもっています。その思いに応える授業を展開するために作成します。

2つめは、授業を行う教師自身のためです。

教師自身の思いを整理し、授業に対するイメージを明確に持つことにつながります。

3つめは、授業を参観する人たちのためです。

小中学校では、校内で一人一授業を実施しているところが多いと思いますが、学習指導案を見ることで、参観者は授業者の教育観や指導観、価値観などがわかります。そのことが、お互いの意見交流の機会となり、力量を高めることにつながります。

(2) 何のために書くの？

- ✓ 授業全体の構造が明確になること
- ✓ 個々の児童生徒の実態や予想される反応に応じた支援をすることができる
- ✓ 指導者が複数の場合でも、スムーズに指導体制を作ることができる

学習指導案は、何のために書くのか。

この3つがあると思います。

学習指導案は、理想とする授業に近づき、よりよい授業を行うために書きます。

(3) 特別支援学級と通常学級の学習指導案の違い



	特別支援学級の学習指導案	通常学級の学習指導案
単元設定の理由	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の実態 2 単元観 3 指導観 	<ol style="list-style-type: none"> 1 教材観 2 児童生徒の実態 3 指導観
目標と評価	単元の全体目標 本時の全体目標 単元の個人目標 本時の個人目標 評価の観点	単元の目標 本時の目標 評価規準
手立て	一人一人に応じて 個別の支援を設定し 本時の展開の中に、具体的に記入 する	学習集団共通の指導方法を 記入する

次に、通常学級の学習指導案との違いについて考えてみましょう。

赤のフォントの部分が異なる点です。

特別支援学級の学習指導案は、個に応じた指導を充実させるために、一人一人の児童生徒の実態から、個人の目標、目標を達成するための個別の支援などを考え、それを具体的に記入していきます。

もちろん、ベースは先生方の各学校の指導案様式に習うところもありますが、通常学級で行う授業の学習指導案とは異なる部分があります。

(3) 特別支援学級と通常学級の学習指導案の違い



ここが
ポイント!

- ① 子どもの実態からスタートすること
- ② 実態、目標、指導方法、評価等において「個」に焦点を当てること

通常学級では、教材観から入りますが、特別支援学級では児童生徒の実態からスタートします。実態、目標、指導方法、評価等において、「個」に焦点をあてて記入していきます。

(4) 押さえておきたいこと

- ① 指導者が児童生徒の実態をどのように把握して、**授業目標、内容等具体化**して計画を立てているか。
- ② 単元(題材)全体の中で本時をどのように位置づけているのか、**他の単元や教科等の関連**はどうか。
- ③ 本時における児童生徒の学習活動をどのように予想し、どのような**手立て**を考えているのか。**児童生徒を生かす具体的な手立て**は何か。
- ④ **授業の中に評価**をどのように位置づけているか。

押さえておきたいことは、4つあります。

特に、②の他の単元や教科等の関連はどうか、という点は、大事な視点です。

例えば、生活単元学習で、「校外学習を成功させよう」という単元を設定したとします。

校外学習で使うお金の勉強は、算数で学習したり、校外学習に行く場所を社会科の地図学習で学習したりと、他の教科との関連を考えながら単元を位置づけることも大切になります。

ぜひ、押さえておいてください。

3 学習指導案を書くステップ

STEP 1

児童生徒に付けたい力を考える

どのような特性や実態の
児童生徒なのか

集団になったとき、
どのように影響
し合うか

この単元(題材)では、
こんな力を身に付けさせ
たいということを考える



次は、学習指導案を書くステップを説明していきます。

まずSTEP 1として、特性や実態に応じて、児童生徒に付けたい力を考えましょう。

STEP 2

単元（題材）を設定する

どんな題材やテーマにしようかな…

その単元(題材)には、
どのような意義があるか
自立活動の視点ではどうか

ねらいに迫ることができるか？
**興味関心をもって主体的に
学ぶことができるか？**

STEP 3

単元（題材）の目標を設定する

単元を通してねらえることは
何だろう **(学級・個人)**

こういう支援があればできるのでは？

STEP 2 は、興味関心をもって主体的に学ぶことができるかを考えて、単元（題材）を設定します。

STEP 3 は、学級の児童生徒、また一人一人のねらいを考えて、単元（題材）の目標を設定します。

STEP 4

単元（題材）計画をたてる

この単元(題材)を
どのような活動で展開し
ていくか…

教材・教具、教師の協力体制等は
どうするか

STEP 5

本時案を考える

本時で、どのような力を育てたいか
児童生徒が主体的に学習したくなる
展開をどのようにするか

目標に迫るための課題
(全体・個別)、支援は
どうするか

STEP 4では、単元（題材）計画をたてるときには、教材・教具を考えていきます。

STEP 5では、児童生徒の動きを考えながら、本時の展開を考えます。

4 児童生徒の実態をふまえて作成

(1) 知的障害学級の場合

知的発達に遅れがある児童生徒は

一人一人の発達段階や障がいの状況も様々で、個人差の幅も大きい

ここがポイント!

児童生徒の実態

- ・ 言語だけの課題、抽象的な課題は困難
- ・ 初めてのことや見通しをもつことが苦手
- ・ 学習の定着には、スモールステップや繰り返しの学習が必要
- ・ 学習経験や生活体験が少ない

- ① **視覚的支援、体験学習**を取り入れる
- ② **事前の予告、見通し**を持たせる
- ③ **学習の進度や、つまずきに合わせて支援を修正**していく
- ④ 教材を作成し、**子どもが達成感を味わえるような工夫**をする

特別支援学級には、さまざまな児童生徒が在籍しています。

ここからは、児童生徒の実態をふまえて作成するために押さえておきたい点についてお話しします。

知的障害学級の場合です。

知的発達に遅れがある児童生徒は、一人一人の発達段階や障がいの状況も様々で、個人差の幅も大きいので、指導案を作成するときには、次のような手立てを考えてみましょう。

① 言語だけの課題、抽象的な課題が困難な場合

→絵、写真、具体物等の視覚的な支援や体験学習を取り入れましょう。

② 初めてのことや見通しをもつことが苦手な場合

→新しい単元に入るときには、事前に予告し、ビデオ等で見通しをもたせると効果的です。

③ 学習の定着には、スモールステップや繰り返しの学習が必要な場合

→子どもの反応や変容を見逃さず、学習の進度やつまずきに合わせて支援を修正することも心がけましょう。

④ 学習経験や生活体験が少ない場合

→教材を作成し、児童が達成感を味わうことができるように工夫をしましょう。

(2) 自閉症・情緒障害学級の場合

自閉症その他の障がいがある児童生徒は、
知的発達^①の程度は異なっても、障がい特性のために学習上または生活上の困難を抱えている

児童生徒の実態

- ・ 抽象的な質問や内容に答えるのが苦手
- ・ 興味のない話に集中できなかつたり、内容が理解できない
- ・ 場の状況を理解したり、時間的な見通しをもったりするのが難しい
- ・ 手順に独特のこだわりがあつて、変化を嫌う

ここがポイント!

- ① 視覚的な支援や体験学習を取り入れる
- ② 話はシンプルに伝え、視覚教材を利用する
- ③ 学習環境の構造化、学習の流れや活動を明確に示す
- ④ うまくいく学習方法を伝え、学習の成功体験に寄り添っていく

自閉症・情緒障害学級での場合です。

知的発達に遅れがない児童生徒に、当該学年の学習内容を指導されているかもしれません。

しかし、それぞれ特別支援学級に入級した理由があると思います。

指導案を作成するときには、次のような手立てを考えてみましょう。

- ①「Aさんの良いところを教えてください」「登場人物の気持ちを教えてください」など、抽象的な質問や内容をどのように答えてよいかわからない場合

→友だちの発言を参考に、話形を視覚的に提示するなどの支援をしましょう。
また体験学習を取り入れてみましょう。

- ②興味のない話に集中できなかつたり、指示や説明を理解したりすることが難しい場合

→話はシンプルに伝え、視覚教材（写真や動画等）を利用しましょう。

- ③場の状況を理解したり、時間的な見通しをもったりするのが難しい場合

→教師の立ち位置や机の配置や発表の場所を明確にする、学習の流れや活動を明確に示すなどに配慮しましょう。

- ④手順に独特のこだわりがあり、変化を嫌う場合

→「このやり方は楽に解けるよ」「早く解けるよ」など合理的だということを伝えていきましょう。

5 学習指導案の作成の実際

(1) 学習指導案作成のポイント

細案

資料 2 の学習指導案を使って
作成のポイントを具体的に
見ていきましょう



では、次からは、学習指導案がどのような構造になっているのかを具体的に見ていきましょう。
資料集の、2 - 1、2 - 2を ご覧ください。

特別支援学級の細案です。公開研究会や授業研究会などで用いられます。

今回は、これをベースにポイントをお話しますが、学校の様式や指導者の立場、目的に応じていろいろなものが考えられます。

では、早速 資料 2 - 1 の指導案に沿って、項目ごとのポイントを押さえていきます。

(1) 学習指導案作成のポイント

資料2

1 単元（題材）名



《単元、題材、主題の考え方の目安》

単元： 領域・教科を合わせた指導 で用いる

題材： 教科別の指導、特別活動 で用いる

主題： 特別な教科 道徳や自立活動 で用いる

指導案の一番初め、単元名 とするのか、題材名 とするのか 迷ったことはありませんか。

単元は、学習内容の有機的なまとまりを示すものであり、学習に順序性があり、計画－準備－実践－反省という一連のまとまりやつながりがあるもの。

領域・教科を合わせた指導、生活単元学習や作業学習等で用います。

題材は、教科における系統性等を背景にもった学習活動の材料を示すもので、教材の一部であり、学習活動のまとまりを示しているものになります。

教科別の指導、特別活動で用います。

そして主題は、特別な教科 道徳や自立活動で用います。

(1) 学習指導案作成のポイント



2 単元（題材）設定の理由

(1) 学級及び児童生徒の実態

- ・設置学級の 障害種別、在籍児童生徒数、障がいの状態 について記述。
- ・個々の実態は、「～ができない」という否定的な内容でなく、「できつつあること」「少し頑張ればできそうなこと」など、肯定的な表現で記述する。

(2) 単元（題材）観

- ・単元（題材）の特徴、単元（題材）を学習する意義や価値、単元を通して、児童生徒に望む姿や付けたい力 を記述する。
- ・個別の指導計画 や学習指導要領の内容・項目との関連、既習教材や教科・領域、日常生活との関連等を記述する。

2 単元（題材）設定の理由 です。

（1）学級及び児童生徒の実態では、設置学級の「障害種別、在籍児童生徒数、障がいの状態」について記述します。個々の実態は、肯定的な表現で書きます。

（2）単元（題材）観では、単元を通して、児童生徒に望む力や付けたい力を記述します。ここで大切なのが、個別の指導計画との関連を必ず考えて記述します。

2 単元（題材）設定の理由



（3）指導観

- ・ 児童生徒が主体的に活動に取り組むことができるように、指導上の教師の支援を具体的に記述する。

例：～をすることで、～ができるようにする

- ・ 展開の仕方、指導形態、指導方法の工夫
- ・ 単元（題材）を通じた具体的な支援
- ・ **教材・教具の工夫、教師の協力体制**

（3）の指導観では、児童生徒が、主体的に活動に取り組むことができるように指導上の教師の支援を具体的に記述します。

書き方の例としては、「～をすることで、～ができるようにする。」です。

教材・教具の工夫や教師の協力体制なども書きます。

2 単元（題材）設定の理由



(1) 学級及び児童生徒の実態

このような実態で、このような課題がある児童生徒たちです。

(2) 単元（題材）観

だから、このような意義のある単元（題材）を選定しました。

(3) 指導観

課題達成のために、このような指導・支援の工夫をしていきます。

2 単元（題材）設定の理由 の書き方をまとめると、以下のような流れで、書いていきます。

「このような実態で、このような課題がある児童生徒たちです」



「だからこのような意義のある単元（題材）を選定しました」



「課題達成のために、このような指導・支援の工夫をしていきます」

(1) 学習指導案作成のポイント



資料2

3 単元（題材）の目標

- ・児童生徒の実態をもとに、単元（題材）を見通した全体の目標を設定。
- ・目標は、児童生徒の立場で記述。 **例** ～することができる。
- ・観点別学習状況の評価の3観点を踏まえて記述(R3～4観点から3観点へ改訂)。

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」

4 単元（題材）の評価規準

- ・各観点に関して、何に着目して評価するかという評価する内容を記述。

3 単元（題材）の目標では、児童生徒の実態をもとに、単元（題材）を見通し全体の目標を設定しましょう。

目標は、例、～することができる、のように、児童生徒の立場で書きます。先ほど観点別学習状況は、評価の3観点を踏まえて記述します。

R3年度からは、学習指導要領の改訂で、これまでの4観点から3観点での評価になりました。

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

資料2－1の裏面へ進みます。

4 単元（題材）の評価規準です。

各観点に関して、何に着目して評価するかという評価する内容を書きましょう。

(1) 学習指導案作成のポイント



資料2

5 単元（指導）計画と評価の計画

- ・ 児童生徒が見通しをもって、学習に取り組むことができる計画を考える。
- ・ 評価計画には指導計画に沿って3観点の内容をどのように重点をもって指導していくかを示す。

6 児童生徒の単元（題材）に関する個別の実態及び目標

- ・ 実態を書く際には、できるだけ否定的な表現は避け、どういう支援があればできるのかを記述。

例：～は難しいが、～すれば～できる

5 単元（指導）計画と評価の計画では、目標達成のために、単元（題材）全体の主な活動について考えます。

どのように指導を展開していくかを書きましょう。

児童生徒が見通しをもって学習に取り組むことができる計画を考えましょう。

また、評価計画の中には、指導計画に沿って、3観点の内容をどのように重点をもって指導していくかを示します。

6 児童生徒の単元（題材）に関する個別の実態及び目標では、単元で扱う内容に関する個々の児童生徒の実態と目標を書きましょう。その際、実態に書いた内容と目標が結び付くように書きましょう。

実態を書く際には、どういう支援があればできるのかを書きましょう。例えば、「～は難しいが、～すれば～できる」というような書き方です。

実態をもとに、単元を見通した個別の目標を書きましょう。この際、3 単元（題材）の目標との整合性がとれるよう設定しましょう。

(1) 学習指導案作成のポイント



資料2

7 本時について

(1) 本時の目標

- ・ 単元（題材）の全体目標に基づいて、本時の学習の全体目標を記述。
- ・ 単元（題材）の個人目標に基づいて、本時の学習の個人目標を記述。児童生徒の立場で記入。
※ 授業後評価できるように、できるだけ具体的に記述。

例：～することで（～を通して）…できる。
～の活動で…を身に付けることができる。

7本時について です。

(1) の本時の目標では、「5 単元（題材）計画」と評価の計画に基づいて、重点をおく観点にしぼって目標を設定しましょう。

単元（題材）の全体目標に基づいて本時の学習の全体目標を、個人目標に基づいて、本時の学習の個別目標 を記述します。

児童生徒の立場で、具体的な活動を書きます。

授業後評価できるように、例のようにできるだけ具体的に記述します。

(1) 学習指導案作成のポイント



資料2 (例① 例②)

7 本時について

(2) 展開

学習活動・児童生徒の立場で具体的な活動を記述。

主な発問・予想される児童生徒の反応

例① 全体の流れの中に、個人の流れをもちこむ

例② 個人ごとに活動、支援を記述

全体に共通する中心的な課題があれば記述

指導・支援と評価

・本時の個人目標に基づいて評価の観点を設定

・T1・T2の役割分担も明確に分かるよう記述

(2)の展開です。資料2の例①、例②をご覧ください。

学習活動は、児童生徒の立場で、具体的な活動を記述します。

主な発問・予想される児童生徒の反応では、書き方が例①②のように2パターンあります。

特に教科学習では、例②の方が書きやすいと思います。

取り上げた単元(題材)によって、どちらの書き方の方が、1時間の活動が見えてくるかで書き方を選ぶとよいでしょう。

指導・支援と評価は、本時の個人目標に対して、個々の児童生徒がどのようなことを、どの程度できれば目標達成と分かるように書きましょう。

また、T1・T2の役割分担も明確に分かるように記述しましょう。

(1) 学習指導案作成のポイント



資料 2

8 授業の観点

- ・ 参観者が授業を見た後、協議の視点となるもの
 - ✓ 授業者の支援が適切であったか
 - ✓ 本時の目標とリンクしているか



先ほどの資料 2 に戻ります。

8 授業の観点 です。

授業の観点とは、参観者が授業を見た後、協議の視点となるものです。授業をどのような視点で参観するのか、何について考えるのかは、授業者の課題意識、各校の研究テーマなど目的によって変わります。

以上が、学習指導案細案のポイントになります。

資料 2 の項立の前に★印をつけておきました。学校によって様式や項目は変わってくると思いますが、細案の場合、★印についての記述が必要です。

まずは、今お伝えしました学習指導案の基本構造をしっかり理解しておいてください。

(2) 学習指導案作成のポイント

略案

略案作成の目的とは？

- 授業づくりの PDCAサイクル を日常化させ、授業をより充実したものにするため

書く機会としては…研究公開の一般授業
校内研究授業
授業参観 etc.

次からは略案についてお話しします。

先生方は、もしかしたら、この略案を作成する方が多いかもしれませんね。細案も略案もよりよい授業のためにあるものです。資料3の略案をご覧ください。

まず、略案作成の目的について押さえます。

略案作成の目的は、授業づくりの PDCAサイクル を日常化させ、授業をより充実したものとするためです。

(2) 学習指導案作成のポイント

略案

資料3

ここがポイント!

略案を書くことの意義

- ① 一人一人の目標、具体的な活動内容や指導・支援方法、場の設定などを明確にする。
計画的な指導
具体的な支援
- ② T1、T2の動きや役割を明確にする。
共通理解
- ③ 授業の進行状況を確認する。
授業の評価
- ④ 授業の実際を振り返り、次時に生かす。
授業反省、評価、改善

では次に、略案の意義についてお話します。
略案を書く際のポイントは4つあります。

一つめ 略案を作成することで、計画的な指導、具体的な支援が明確になります。

二つめ 役割を明確にすることで、共通理解がなされ、より質の高い授業になります。

三つめ 授業中の児童生徒が取り組む姿や進行状況によっては、修正が必要になることも考えられます。そのもとになるのが、略案です。計画した授業展開となっているかどうか、略案を確認してみることは大切になります。

四つめ 授業後、略案をもとに授業を振り返り、次時に生かすことができます。

授業参観などの機会には、ぜひ略案の作成でよりよい授業を目指してください。

(3) 学習指導案作成のポイント

自立活動

- 障害による学習上または生活上の困難を克服し、自立を図るため **特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動を取り入れること。**
- 児童の障害の程度や学級の実態等を考慮の上、各教科等の目標や内容を **下学年の教科の目標や内容に替えたり**、各教科を、知的障害者である児童に対する教育を行う **特別支援学校の各教科に替えたり** するなどして、**実態に応じた教育課程を編成すること。**

『特別支援学級における**特別の教育課程**（小学校学習指導要領第1章4の2）』

自立活動の学習指導案を書くときのポイントです。

はじめに、学習指導要領についておさえておきたいポイントが2点あります。

小学校学習指導要領には、特別支援学級において、自立活動を取り入れることとの記載があります。

また、下学年の教科の内容や目標に替えること、特別支援学校の各教科に替えることができることも記されています。

児童生徒の実態からスタートした授業を実践することができるのです。

(3) 学習指導案作成のポイント

資料4

自立活動

1 題材の目標

- 目標設定にあたり、自立活動の6区分27項目のどの区分、項目を選定したのかを書く

特別支援学校学習指導要領解説
自立活動編の活用を！

資料5

2 学級及び児童生徒の実態

- 目標で選定した自立活動の区分、項目についての児童生徒の実態が分かるように書く

資料4、資料5をご覧ください。

自立活動の指導案を書く際に気をつけることとして、「2 題材の目標」を設定する際には、自立活動の6区分27項目のどの項目を選定したのかを書くことが大切です。

また、なぜその項目を選定したのかが分かるように、3 児童生徒の実態について書いていきます。

具体的な指導目標や指導内容を設定するためには、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の流れ図（資料5）を使いながら考えていくとよいでしょう。

(3) 学習指導案作成のポイント

自立活動

3 各教科等との関連

- 自立活動の時間における指導と各教科等における指導とが密接な関連を保つことが必要である。

『（特別支援学校学習指導要領小学部・中学部第1章第2節の2の(4)』

- 必要となる項目を選定し、それらを相互に関連づけ、具体的な指導内容を設定する。

『（特別支援学校学習指導要領小学部・中学部第7章第3節の2の(5)』

ポイント

各教科の課題を“自立活動の視点”で捉えてみよう！

また、各教科等との関連や選定した項目との関連についても記載していきます。

資料の学習指導案では、題材と評価基準のところに、その他の項目や国語との関連という部分に書かれています。

資料4の学習指導案についてですが、実際に生徒が授業で行っている課題は、作文を書くことです。一見国語の授業といってよいかとも思われます。しかし、自立活動の視点で作文を書くという作業をとらえ、授業を展開したのが、この指導案です。

「自閉症・情緒学級だから自立活動は・・・」、「中学校だから自立活動の時間は取れない・・・」などと自立活動を難しく考えずに、各教科での課題を自立活動の視点で見直すことで取り組むことができるのではないのでしょうか？

また、各教科の授業を行う際にも、自立活動との関連、自立活動の視点を考えることも大切なポイントになるでしょう。

6 最後に

一人一人の実態に
合った授業



高

中

小



自分の力を発揮し、
主体的に学習できる

自分の力を発揮し、
主体的に生活できる



最後に、子どもたちが、自立と社会参加を目指して、自分の力を発揮し、主体的に学習できる姿から、自分の力を発揮し、主体的に生活できる姿へつなげていくには、小中高と日々の授業の積み重ねによってこそ可能になります。

彼らの将来の自立と社会参加の基盤を養う上で、授業がとても大切なものだといえます。

6 最後に

- ◎ 「自立と社会参加」は今の生活から
- ◎ 日々の授業の積み重ねを大切に

一人一人の実態からスタートした、実態に合った授業を展開できるのが、特別支援学級の良さです。

自立と社会参加は、今の生活からつながっています。ぜひ、日々の授業の積み重ねを大切にしてください。



学習指導案作成に役立つ参考図書

- ☑ 特別支援学校学習指導要領 文部科学省
- ☑ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説
自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 文部科学省
- ☑ 特別支援教育の学習指導案と授業研究 ジアース教育新社



学習指導案作成に役立つ図書を紹介します。参考にしてみてください。

悩んだ時には、ぜひご相談を!!

子どもが本来持っている能力を発揮することができる授業

子どもの可能性を伸ばすことができる授業を

目指していきましょう



悩んだときは、ぜひ、地域のベテランの特別支援学級担任の先生方や、センター的機能の特別支援学校の先生方にご相談ください。

子どもが本来持っている能力を発揮することができる授業、子どもの可能性を伸ばすことができる授業を目指していきましょう。